

しげの里づくりの会

かわら版

第21号
しげの里づくりの会
広報委員会
住所:東御市滋野乙205-1
TEL:0268-71-7581



地元農産物の売り場

地元農産物の売り場



子供相撲大会



ごみひろい



道の駅全景

東御市の観光の拠点である道の駅「雷電くるみの里」が早いもので、昨年9月に創立20年を迎えました。

もともと滋野地区にはほかの地区のような温泉施設などもないことから、冬の気圧配置になぞらえて「西高東低」だと言われてきました。そんな思いを払拭し、東御市の観光の拠点、地元農産物の販売、雇用創出など、地元の熱い期待を一身に受けて設立されたのが道の駅「雷電くるみの里」でした。

設立当初から大勢の観光客でにぎわい、食堂では地元特産の「おそば」が人気で、店頭には土産物のおみやげやお菓子とともに、地元の野菜や果物が並んでいます。

道の駅がこれからも一層発展されることを願っています。

地域活性化の拠点「雷電くるみの里」20年

▼ 雷電くるみの里はコロナ前の状況に戻りつつあります。来店客はレジ通過者で毎月4万人、年間50万人にのびります。来年の春にはこれまでの累計来店客が九百万人に達する見込みです。これは長野県内の道の駅でもトップクラスです。

▼ 土産物品の中で人気はなんといっても地元野菜や果物です。毎朝農家の皆さんが取れたてを持ち込んで来てくれます。こうした直売組合の会員は現在304人。昨年度の売り上げは2億2千万円に達するそうです。

▼ 道の駅は毎年多くのイベントを行っています。どんど焼き、子供相撲、花市、フリーマーケットなどです。7月には地域の皆さんによびかけ道の駅周辺のゴミ拾いを行いました。これは毎回200人を超える一大イベントとなっています。

▼ 道の駅はいまや地域活性化の希望の星となっています。

来年の春には
来店客が九百万人に
達する見込みです



滋野小学校の子どもたちが先生や保護者の皆さんと一緒に「おうちのえんがわ」を訪れました。子どもたちは2年生や3年生を中心に90人。早速思い思いに将来になりたい職業や夢などを短冊に書き、笹竹に結んでいました。夢がかなえばいいですね。

8月12日には花市とボールすくいが計画されています。どうぞご家族でお出かけください。



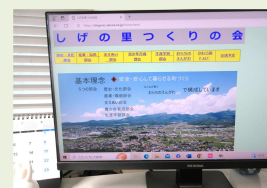
おうちのえんがわ
七夕飾り

おうちのえんがわ

- 営業日 月・火・木・土
- 営業時間 10時～17時
- 電話 0268-71-7581

- * どなたでもご利用できます。
- * どうぞお気軽においでください。

編集後記



現在しげの里づくりの会ではホームページ作成に向けて取り組んでいます。これまでの確かな情報発信のためにかわら版を充実してまいりましたが、さらにタイムリーな情報発信に努めてまいります。

完成しましたら、かわら版にてご紹介させていただきます。

令和5年 分館報コンクール

赤岩分館 最優秀賞受賞！



分館報は身近な広報誌として親しまれ、滋野地区でも多くの区で発行しています。そんな中、赤岩分館が毎年行われる分館報コンクールで最優秀賞を受賞しました。昨年に引き続き連続受賞です。

調べてみると、過去31年間の分館報コンクールで最優秀賞を受賞した33分館のうち、26分館は滋野地区でした。赤岩だけでなく滋野地区全体の分館報のレベルにはきわめて高いものがあります。

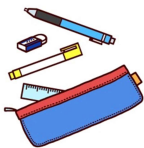
優秀な分館報の背景には活発な公民館活動があります。里づくりの会の活動はこうした公民館活動によって支えられています。里づくりと公民館活動と二人三脚で歩んで行ければと思っています。

■ 通学合宿 9月16日(祭)~19日(木) 主催 実行委員会



通学合宿では子どもたちが地域のボランティアさんの協力を得て、3泊4日の共同生活を過ごします。ここから学校に通います。こうした取り組みの中で子供たちの社会力や生きる力の向上を目指します。5月から準備をしてきましたが、いよいよ始まります。役員一同力をあわせて取り組んでまいります。

■ 学習会-子ども・若者の未来を考える 9月23日(祭)



東御市子ども家庭支援課から不登校やいじめなど子供たちをめぐる状況についてお話をお聞きし、いま子どもたちや若者に求められる支援とは何か、どうしたらもっと明るい未来が開けるのかについて、ご参加された皆さんと一緒に考えます。

■ 子ども作品展 10月初旬を予定しています。



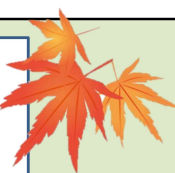
昨年滋野小学校の子ども達の絵や作品、北御牧の障がい者施設「笑み明日」の皆さんの絵や作品を「おうちのえんがわ」で展示しました。今年も行いたいと考えています。詳細はこれから検討してまいります。どうぞお出かけください。

■ 滋野ふれあいのつどい 10月27日(日)

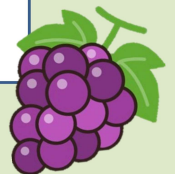


「ふれあいのつどい」は公民館で行っている生涯学習の発表の場です。スタートは子ども達の金管バンドの演奏です。その後歌やダンス、楽器演奏など多彩な発表が行われます。1階では抹茶のご接待や絵画の展示など様々な発表が行われます。ふれあいのつどいに合わせて子ども広場や滋野小学校資料室の公開が予定されています。

それぞれのイベントの内容は各部会で発行する印刷物をご覧ください。



9・10月この秋も多くのイベントが行われます。
「家族でお出かけになりますか？」



おらほの
地域づくり

成立・寺ノ浦石器時代
住居跡保存会 — 原口区



保存会の会長である中沢利和さん(写真参照)にお話を聞きました。

■ きっかけは何でしたか

保存会の設立は令和4年ですが前年から動き出していました。きっかけは国の史跡なのに放置されていた、これでもいいかと思っていたことからです。区の協議委員会や区民の方から成り立跡の住居が壊れてきたので直せないかとの提起があり

■ 保存会立ち上げに向けて

ました。区の長期計画にのせ、市と交渉したところ「住居は住民が建てたもので市の施設ではないから補助金は難しい」との回答でした。「このままではダメだ」と思いました。その後、東御市文書館で「成立遺跡回顧展」が開催され、見に行きました。当時中部高地で初めて発見された敷石住居で重要な遺跡であるこ

▼ 現在東御市において「小学校単位の地域づくり」を掲げて、市内5地区に地域づくりの会が活動しています。私たち滋野地区においても「しげの里づくりの会」が様々な取り組みを行っています。

▼ しかし、地域づくりは何も「里づくりの会」の専売特許ではありません。それぞれの区においてもボランティアによって様々な取り組みが行われています。こうした活動も地域作りを担う重要な要素です。

▼ そこでこうした活動を紹介してまいります。第一回は「成立縄文祭」に取り組んでいる原口の「成立・寺ノ浦石器時代住居跡保存会」の皆さんの活動を紹介します。

とを改めて認識しました。会場で萩原さん(現保存会事務局)と出会い、遺跡の整備・保存に対する思いが同じであることがわかり、そのためには保存会を立ち上げ、地域から発信して行きたいと考えました。市では遺跡の草刈りを原口の老人会に委託していたので、老人会長にも入ってもらい、最初は有志6~7人でスタートしました。その後活動を理解していただき、現在では地区内外80名を超えました



■ 運動は大きく広がっていった

最初に始めたのは成立遺跡と一緒に国指定となった寺ノ浦遺跡(小諸市)をつなぐ連絡路を復活することでした。昭和5年に住居跡が発見された時に造られたものです。昨年4月には成立縄文祭を開催し、市内外から120名の方に参加いただき、勾玉作りなどを楽しんでいただきました。

今年も第2回を開催し、御牧太鼓の皆さんのご協力を得、また土偶作りに挑戦していただきました。毎回目先を変えて新しい企画を考えるのは大変ですが、皆で意見を出して取り組んでいます。

■ 運動が盛り上がった秘訣は?

まず楽しんでやっていることです。「縄文を語る会」と称して定期的に勉強会、他の遺跡や博物館見学。雷電紙相撲大会に参加しデザイン賞をいただいたり、土偶をモチーフにしたTシャツも作りました。成立・寺ノ浦遺跡は地元にとっても大切な史跡です。区とともに保存・活用に向けて取り組んでまいります。興味のある方のご入会を歓迎します。昨年は滋野小学校の資料室の整備のお手伝いをしました。歴史に関心を持った子どもたちにも入会してもらえたらうれしいです。